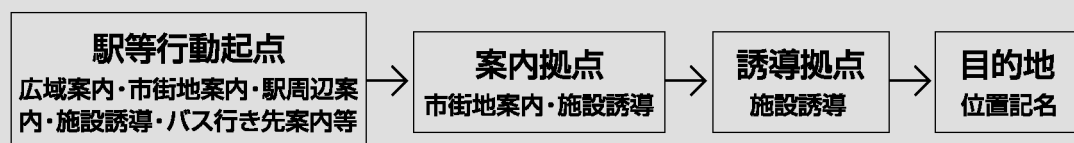


2 サインの体系・システム

ここでは、案内誘導を目的とした公共サインの体系を整理します。また、適切な案内・誘導をはかるための配置の考え方について示します。

2-1 サインシステム

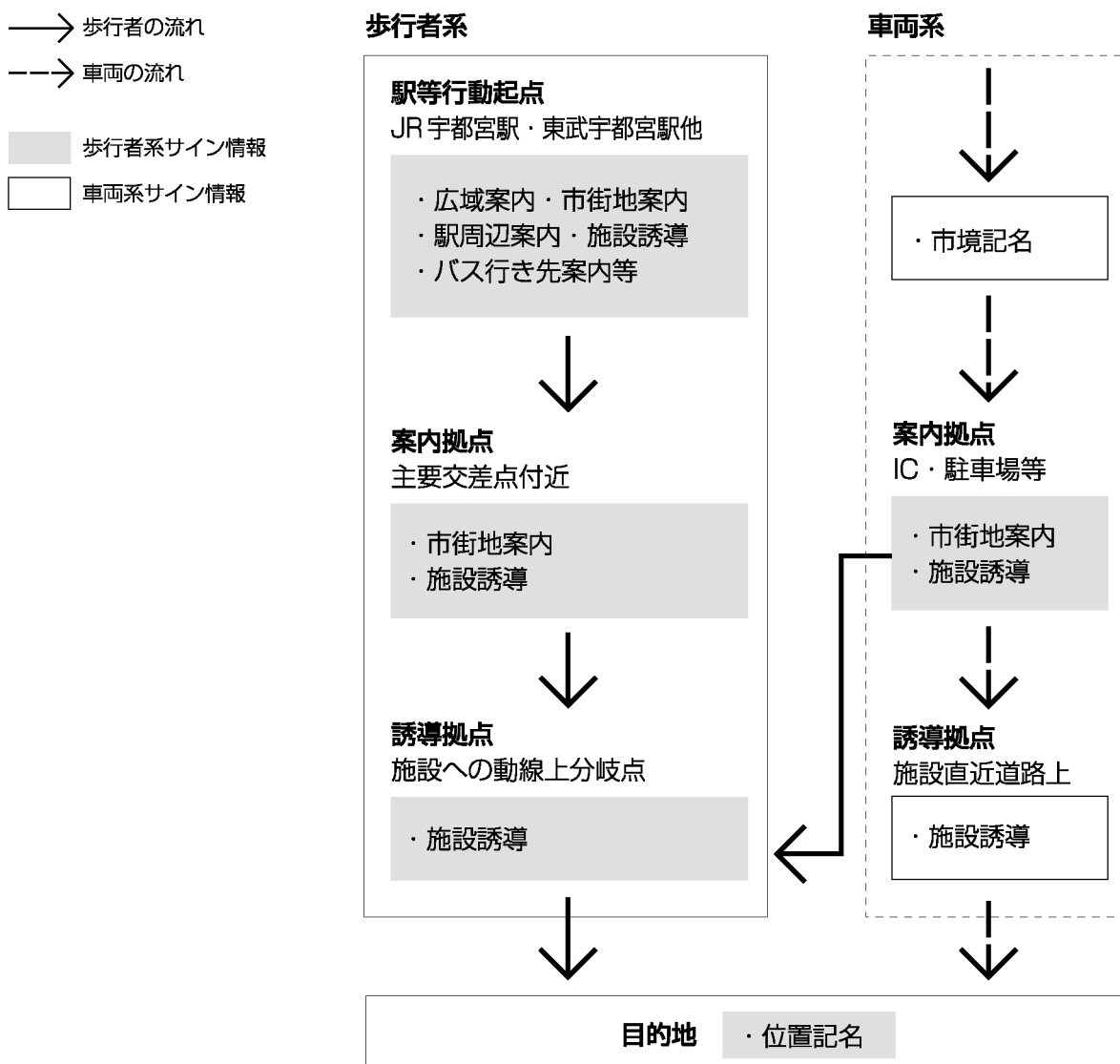
サインシステムの基本形



案内・誘導を目的とするサインは、目的地までの動線上に連続して設置されることで有効に機能します。この一連の情報の流れをサインシステムと呼びます。

歩行者系サインシステムについて、駅等行動起点・案内拠点では、案内地図でまちの全体情報を提供し、以後目的地に近づくにつれて随時誘導を行います。目的地では、その場所が目的地であることを示す位置記名を行います。

車両系サインシステムについては、標識令等関係法令の規定に従うものとしませんが、必要に応じて歩行者系サインシステムとの相互連携をはかるものとしします。下記に概要を示します。



市街地サインシステムの主なパターン

- ・ 階層配置＋投網配置；回遊性を創るための面的なまちの情報提供
- ・ 線状配置；観光名所めぐりなど、ルートを設定した情報

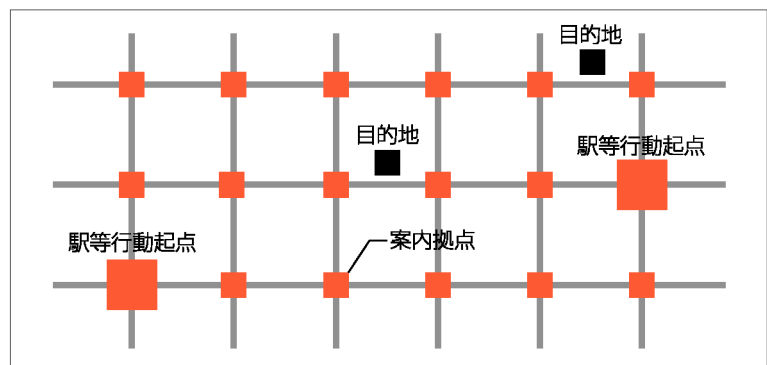
市街地のサインシステム

サインシステムは都市ごとの状況に応じて設定する必要があります。ここでは、市街地と観光地における主なサインシステムのパターンを示します。

階層配置＋投網配置

駅等行動起点を特定し情報提供を行うとともに、計画対象地域に均等な密度で案内地図情報を提供します。

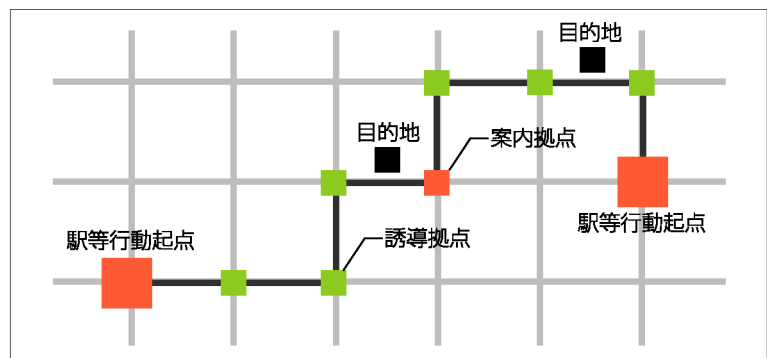
長所として、回遊を誘発することができるため、徒歩で移動することが主となる中心市街地等の都心部で採用されます。



線状配置

駅等行動起点から移動経路を設定し、その間の重要なところで情報を提供します。

案内地図・施設誘導情報の他、「歴史建造物を巡るルート」など、観光情報を提供する目的で採用されます。

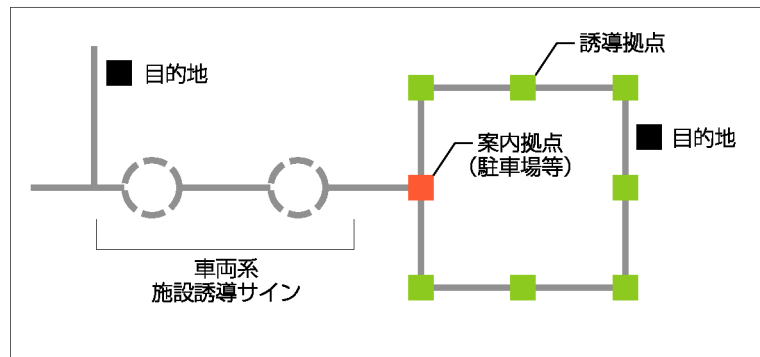


観光地のサインシステム

車両に対する施設誘導と、歩行者に対する観光情報との連携

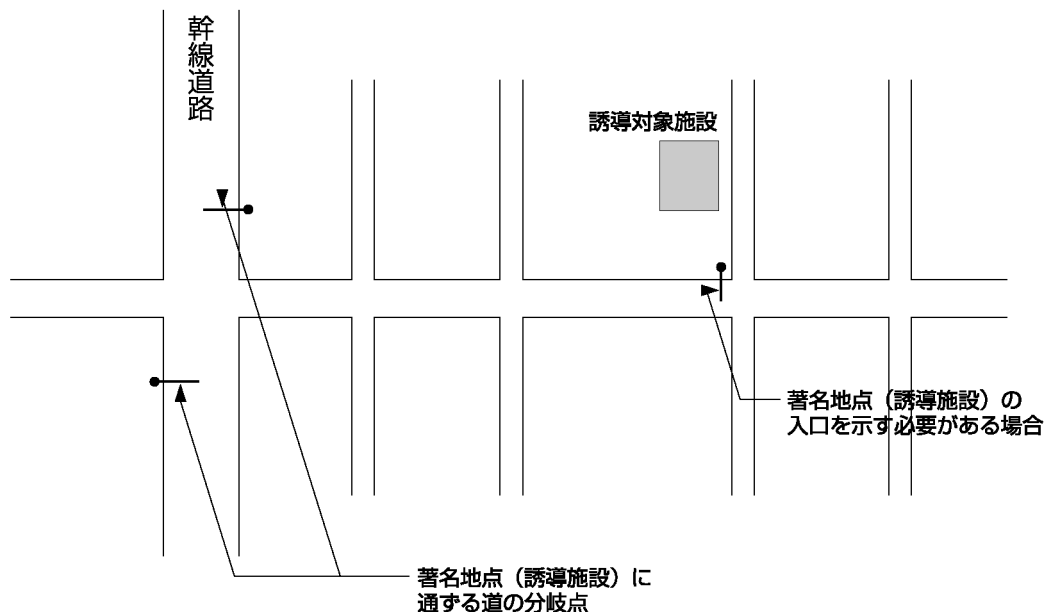
観光地サインシステム：車両系サインと歩行者系サインの連携

大谷町等、車両を主体として移動する観光拠点においては、車両系サインと歩行者系サインの連携が必要となります。他都市では、駐車場や観光バスのターミナル等を起点とし、近隣の施設までの情報提供を行う手法が多く採用されています。



(参考) 著名地点案内標識 (車両系施設誘導サイン) の配置の考え方

道路標識設置基準 (P.78 参照) によると、「著名地点 (誘導施設) に通じる道の分岐点、または、特に著名地点 (誘導施設) の入口を誘導案内する必要がある場合に設置すること」とされています。これに基づき、基本的には施設直近においてのみの配置とします。



2-2 配置の考え方

適切な案内・誘導をはかるため、各サインの種類に応じて見やすい位置を選択し設置する。

ここでは、前述のサインシステムに基づき、具体的な配置のポイントを示します。

駅等行動起点サイン（広域案内／市街地案内／駅周辺案内／施設誘導／バス行き先案内等）

駅前や駐車場等、来訪者の行動起点となる場所に配置します。

駅の規模・利用者特性に応じ、上記サイン種類から必要なものを選択し表示します。

その際、複数種類のサインをできるだけ集約し掲出します。

市街地案内地図サイン

主要幹線道路交差点付近の見やすい場所に設置します。

施設誘導サイン

誘導対象施設への動線上分岐点となる場所に設置します。

